京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年

本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 松久神一郎

京城西署西小門通（電話六六三）

發行所 京城新報社

働く人と遊ぶ人（一）

世の中には仕事のために働く人、金のために働く人、遊ぶ事本位の人即ちこの三つの人類がある

仕事をする事を好み、仕事のために一身を忘れ、一家を忘れ、一國を忘れ天下の凡てを忘れ去りて唯々一途に自己の業務の外念頭に入らない底の人がある發明家の多くは此の類に屬する學者も此の中に入る人が多い實業家もこの類の人たることを希望する凡ての業務に就ける人は業務のために纏れて止まざる人たるを希望する業務に趣味生ずれば人は皆仕事のために働く

然るに又一種の人類ありて金のために働くと云ふ根底に立つ此の類天下に多く武田の郎黨多けれど天目山に從ふもの小宮山内膳一人のみ金のために働くの人利慾のために働くものは皆武田家末流の郎黨の如しこの類の人多ければ繁榮せず世に人多けれど人らしき人少なきはこれが爲めにして成功せざるを嘆ずるは此の類の人物なり實業界に足を入れんとするもの少しにてもこの心あるべからず、

然るに又遊ぶてと本位の人がある、遊ぶこと本位の人と金のために働く人とは實業界に望ましくない單に實業界に望ましくないのみならず大日本帝國の國士を構すべき人凡ての社會に必要はない人は凡て仕事のために働く人事業より外に眼中にない人たらざるべからず。

樂む事と働くてと眠るてとゝ三つの調和は食ふて着たてとに自体を保持すべき必要條件である、

食ふに困る人は食はねばならぬ働け！働け！と云ふ使命を帶ぶる人間一生の經路は食ふための經過である然るに食ふに困らない人は遊ぶてとに骨折つ居てある何か面白い事はないかど！尋ね廻つてある父祖傳來の遺襲に據り天地を我が物顔して遊び廻る人は事業の何物たるを解せず天地の趣味を知らざる人故に遺産を留めずカーネギーも云ふ大名ほど憐むべきものはないと物徂徠が云ふたのもこの點である之れ等の人は未だ世の趣味を解せざる人公等は何故に帝國の國士を踏んで居るかと尋ねたくなる！

食ふに困る人は誠に同情に堪へないがこれは何處かに其の人の缺點あるに相違ない獨力天下を制御し青年血氣の時代に力一ぱいの働きをなし老後の謀をなせば食ふに困るとの泣き言はない筈である。

食ふに困る人も食ふことには困つて居ながら樂むこと働くてと眠ることの三調和はとれて行く、この三調和を失ふたらば人世は破滅死である、

醫藥機關の現狀

こゝ數百年前迄韓國に於ける醫師の地位は極めて高貴なるものにして如何なる兩班と雖身自ら醫師の許に赴き禮を厚ふして診斷を需め金財を捧げて處方を請ふ有様なりしが年を經るに從ひ醫師の地位下落し中頃商賈と同格に見られ晩近に至りては一種の卑下すべき賤業と目せらるゝの風を作れり然るにこゝ數年前より日人醫師の開業するもの極めて多く其の効神の如くなるより漸やく醫師に對する敬意を重ね教育の普及と共に醫術の決して輕侮すべき賤業に非ざるを知り爰に再び醫師の地位を高むるに至れり以上の如くなれば從來醫學を專攻せんとの希望を有する者極めて少數なりしが方今漸々多きを加へたり元來醫藥に關する規定は光武四年内部令醫士規則、藥劑士規則、藥種商及藥品巡視規則なるもの發布せられたれど孰れも空文死律にして要をなさず今其一例を擧ぐれば醫師規則中醫士は醫科大學を卒業し衛生局の檢定試驗に及第したる者に限るとの明文あるも過古は勿論現在と雖韓國に醫科大學なるものゝ存在なしされば目下韓人の開業醫は全國を通じ二千六百五十九人を數ふるも嚴密なる意味に於て醫士としての有資格者絶無と云ふも誣言に非ず内部にては夙にこの點に着目し一面醫學專攻機關を增設すると共に醫士取締規則を發布する筈にて目下それ／＼精査中なり、因みに日人醫師は二百八十三人外人醫士は十九人にして人口一萬に對し醫師三人强の割合なりといふ

●モルヒチ注射惡風

モルヒチ注射の惡風たるは喋々を要せず今韓國に於けるこの惡風の沿革を尋ぬるに三十年前壬午の變亂に際し淸兵の各地に駐屯せるもの濫りに阿片を喫したるより此風漸次韓人間に流行し極端なる今日主義的觀念に富む韓人をして益々惰眠遊食を貪る弊風を養ふに至りしかば外人宣教師は之が救濟の一方法としてモルヒチ注射を行ひたりこれ即ち後來モルヒチ注射嗜好の惡風を植附けたる動機にして昨年五月以降警察官の手にて行政處分を行ひたるもの韓全國にて實に五千百九十人の多きを數ふるに至れり其尤も甚だしきは平北及び京畿の兩道にして平南、咸南、黄海、忠南之に次ぐ而して各道中この惡風の絶無なるは忠北、全北、慶南、江原の四道なりと

文苑

交叉點（上）

大庭青楓

自分は社へ往くにも、家へ歸るにも殆んど船で歩いて居るが、今日は飃な羽目で、電車に乗るやうになつた。それは社のエス君が、是非にと云ふので午後から牛込の同君の宅を訪づれることにしたのだ。

恰度、役所の退刻時分なので、來る電車も往く電車も、滿員の赤い小札を下げて駛つて居る、自分はヤツとの思ひで、江戸川行のへ乘つた。

聽て電車は、コトン／＼と云ふ音をさせて、○○交叉點を越して停留した此處にも學校歸りの男女學生の一團が寒むそうに立つて居る、十字のレールは、怪しい光を放つて居た。

十字のレール……怪しい光……自分の腦中に閃めいた、アヽ轢殺美人!!

自分はまだ牛込の或る學校に通つて居た時分のことだ、その頃、自分は徒歩主義にかぶれて居たので、毎朝、本所から早稻田へ、テク／＼歩をきめこんで居た。或る日のこと、頃は彌生の花時、豪く雨の降つた翌日のことだつた、その日も試驗日たつたので、高い下駄でテク／＼歩いて居ては、到底時間に間に合ふまいと考へたから、俄に徒歩主義を廢して、兩國から電車に乘つた、矢つ張り今日の如に、一杯乘つて居たのだ。

この交叉點に近づくと、運轉手は頻りと警鐘を亂發して居たが、急に運轉を中止した、同時に「ヤ大變ツ」と云ふ聲が、何處からか聞いた。車中の類々は立ち上つた、自分も窓から外を見ると、憐れ蝦茶の式部は、泥中に仆れて居るのだ。二八の美人、眼を細く開いて、四方の人を恨めしさうに見て居る顔の色も死人の如に蒼かつた。

電車は後へ／＼と續いて、進行を停止した、人は黒山の如にこの美人を取り圍んだが、誰一人眉を寄せぬものはなかつた、間もなく、臨檢の巡査も來た、美人は戸板で、駿河臺の某病院に運ばれた、美人の傷は、股から左腹へかけて轢かれたのだ、電車は再び運轉を開始した。

この騷動があつたので、自分は試驗の時間に遲れて仕舞つた、無論、その日の點數は零であつた。

日本銘刀傳

第廿九席 邑井一講演

五郎正宗は東海道を下り、一端鎌倉へ歸りまして一月程休息致し、再び發足して今度は江戸から上州へ出で越後路へ廻はらうと上州倉賀野の宿へ一泊した、此の倉賀野の在に澁山村と云ふがあります、此村に與助と云ふ少年があります、元はなか／＼の財産家、村でも、第一と稱はれた程の豪家でありましたが、續く不幸の爲めに段々と家産を失ない、今は見る影もない貧乏人、誠に憐れな有様なので、此の與助の親父を與左衛門と申し幼い時、母親に別れまして、親一人子一人至つて、孝行の者、聖の敎へにて孝は百行の基とやら、子として親に盡すのは珍らしくないことで、孝行しない方が珍らしい位なもの、自分を拵へて呉れました親に盡すのでございますから、子の分としては當然のこと、時には二十四孝など申しますことがございます、勿論アレは拵物でございませう、何ぼう四百餘州廣しと雖も、あんな事は決してありますまい、中にも孟宗郭、巨王祥など云ふ人の話は隨分解せないことが澤山ございます、孟宗と云ふ孝子は親が寒中是非筍を喰ひたいと云ふので、若しやと竹籔に這入つて雪を分けて一生懸命に堀つて居りまする、天孝子の一心に感せしか、筍が出て來たなどゝ云ひます、又王祥と云ふ人は親が鯉が喰べたいと云はれたが、買ひたくも錢はなし、川に漁りに往つたが、何分氷が張つて居て漁ることが出來ない、三日三夜氷の上に寢て居ると、自分の身体の暖氣で氷が解るや否や、鯉が其中から飛び出したと申します、如何に我慢強い人間でも、三日三夜氷の上には寢て居られるものではございません、孝子の德に依つて、鯉が氷の中から飛び出したとは、隨分支那にも妙な鯉もあればあるものだ、コリヤ拵へ事で日本には其樣な拵へごとはありません、貴賤の孝行が澤山ございますから、併し貞女は日本には至つて尠ないと云ふことでございます、日本で貞女の鑑と云ふと、私始め常盤御前を講演したものでございます、去る物識りの方に伺つて見ますと、何うでも常盤御前などを貞女の鑑に上げて講演すると云ふのは宜しくない、却つて墮落の心を喚起するやうなものだと申されましたが、全く然うでございませう、夫左馬頭義朝は待賢門の軍に敗れて討死を致したので夫人の常盤御前は家來の爲めに助けられ、今若、乙若、牛若と云ふ三人の子供を連れて、龍門と云ふ所に隱匿て居りました、所が敵の淸盛は好色家でございまして、豫て常盤御前の色香美しきことを聞いて居つたものでございますから、何うかして之れを手懐けたいと思ひまして、彌兵衛宗淸に吩付けて常盤の在家を穿鑿させましたが分りませんので、其母の重野と云ふ者を生捕つて、水穴の拷問に掛けました、夫れを聞いて常盤がどうか母上を助けたい子供を助けたいと云ふ所から、淸盛に從つたのは貞操を破つて、貞操を立てたと云ふものゝ、さればこそ三人の子供の命も助かり、母親の命も助けられたなどゝ、鹿爪らしく講演しますが、一旦破つた操の再び立つ道理はございませぬ、况して常盤は淸盛の意に隨ひ女子を一人設けたのみが、其の後淸盛が死亡なりましてからも、さる人の奥方になりまして、又女子を一人設けました、諸方へ嫁して子許り拵へた所を見ると、別段貞女と云ふ所は些つともないやうに思れます、唐にはあります亭主が死で七日目乞丐となり、橋の袂に居て往來の人に縋つて 乞女「何うぞ旦那様、戴かして下さいまし、手前の亭主は七日以前に死亡りまして、斯う云ふ貧しい身装になりました、何うか御助けを願ひます」アヽ可哀想にと情ある人は幾らか呉れる、所が一人の唐人「アヽ美い女だ……姐さん嘸れ困りだらう……錢ア上げやう」乞女「エヽ有難う存じます」と、手を出す好色の唐人其手を確り握つて三錢遣りました、スルト女乞丐は横の欄干に手を掛け懐中から、小刀を執り出して手首をブツリ切つて仕舞つた、其の唐人は吃驚して

唐人「どうしたれ前は氣でも違つたか

女乞「イヽエ氣は違ひませぬ、手前の亭主が死亡りまして、まだ七日しか經過ませんのに、男が手に觸れては沒なられた夫には一言の言譯もございませんから、貴方に觸れた所を切りましたのでございます」實に大した貞女でございます、隨分中には其樣な貞女は無いやうでございます、隨分中には亭主が重い病にでも罹ると、もう候補者の三人も拵へて置くと云ふやうな怪からんものもございます、餘事に渡つて恐れ入りました



滿洲劇の開幕(十一)

韓半島に及ぼす影響

京城新報

米國對亞洋通商の目的は始めから支那大陸であつた、我島帝國の如きは彼の眼に映ずる恰かも太平洋上の布哇の如くホンノ支那大陸に達する中間驛に過ぎぬのであつた、他日**我國が勃興**して亞細亞諸國の**先達**となり**太平洋上の覇王**とならんとは神ならぬフィルモアもペルリも素より毫も考が浮ばなかつた、運命は實に不思議なものである。

支那が一國にして殆んど歐羅巴大陸以上の面積と人口を**無盡藏**なる**秘密の天富**を有するとは昔から白人間に傳へられて居た所ろである、歐洲諸國は數世紀に亘つて殆ど繼續事業の如く此東洋の寶庫を開かんことに盡力したのである、昔は**喜望峯**以東近世に至つてスイズ以東**神無**しとの格言を信ずる歐洲人は支那に向つて**不義の戰爭**をさへも起したことがあるのである、併し支那はマダカスカルに非ず、印度に非ず、チアフに非ず、假令外藩東京は割いても、澳門は割いても、香港は割いても、歐洲人の垂涎せる**本國の寶庫**へは手を附けさせ無かつたのである。

英國がアメリカ合衆國の獨立を承認したのは千七百八十二年である、フィルモアが大統領になつたのは千八百五十年である、建國以來未だ七十年を經過せざる新興國は歐洲舊國の如く東洋に領土を有せんとの**野望**は持たなかつたのである、其證據は五代目の大統領モンローが所謂モンロー主義を確立したのでも明かである、併し殖民地の新國とは云へフルトン**蒸汽船を發明**して以來海外との通商には熱心に勉め着々勢を奨しつゝあつたのである、[illegible]に米國獨立の承認を[illegible]る英國は其面に失ひたるところを東に恢復せんとして自然に印度以東に**猿臂**を延ばすこととなつたのである、千八百四十二年鴉片戰爭に因る南京條約が締結されて香港上海外三港が開港されて、香港の主權が英國に讓渡された、南京條約成る後多年垂延せる歐洲舊國が殆んど一樣に支那と通商條約を結んだ、米人は素と英人の分家だ、支那通商の有望なるを知つて何じよう人後に落ちん、茲に到つて**清教徒**の子孫も遂に**垂涎黨**に加入し淸米通商條約を結ぶことゝなつた。

モンロー主義確立以來合衆國は西へ西へと擴がつた、**カリフオルニヤの金鑛**一度發見せられて以來合衆國人の太平洋岸移住は盛になつた、是等移住民はラテン族アメリカ人を凌駕することゝなつた、千八百五十年加洲は遂に星條旗を飜すことゝなつた。淸米通商條約は加洲合併六年前に於て締結された、併し**鴉片亂**後の支那は**長髮賊**の亂に因つて**排外思想**が彌々高くなつた、英佛人の排擠を有せざる米人には支那に**喰入る危險**が迚も胃かせなかつた、茲に於てか彼等は**急**がば**廻**れで英佛其他歐洲諸國が手を入れざる方面より喰入らんとした、加洲を合せて太平洋國となつたアメリカは**琉球、臺灣**と同樣日本を**支那の屬國**位に解した、彼は彼が支那の屬國なりと誤解せる日本を中間驛として大陸に步武を進めんと決心した、提督ペルリ**遠征艦隊**を率ひて千八百五十一年始めて琉球を訪ふた轉て下田浦賀の沖に現はれ幕吏と開港の交渉を開始した、其後ち**小笠原島**を**根據地**となして現はれては去り去つては亦た現はれ五十三年遂に**井伊大老**として和**親條約に調印**せしめ**下田の開港**を斷せしめた、**ペルリの使命は遂行**され**十九世紀の文明**は無遠慮に**神州に入る**ことゝなつた。

東京電報

▲**大石氏の對韓質問** 代議士大石正巳氏は廿五日の豫算委員總會に於て滿韓に對する帝國施政の方針を質問し[illegible]千萬圓の國費を投じて何等見るべき施設なく反つて排日思想に禍根を釀すは結局根本方針の確立せざるに依る政府の對韓方針如何と痛論せる質問を爲し桂總理は統監政治に就ては一定の方針の下に施行せり其治績は本議場に於て既に述べたる通りなりと答辯せり(廿五日午後議會)

▲**外國米の輸入額** 外米輸入税增率案は又々政友會より今期議會に提出さるべきが當局の調査に係る外米輸入額は例年平均三千萬圓なるが昨年は一千三百六十万圓に過ぎざりしと

▲**減租問題と政府** 地租輕減問題は議院の[illegible]出せず政府は税制整理案として提出したる地租條例[illegible]議院より提出すべければ税制整理委員會の決議に[illegible]すべしと(二十六日)

▲**商務官の派遣確定** 政府は倫敦、紐育、ハンブルグ、香港、上海、天津等に商務官を派遣する事に決し人選は四月頃決定すべし(同上)

▲**小村外相の演說** 米國の提議に係る滿洲鐵道中立問題に對する帝國の意志を表明し米國の提議を拒絕したるの顚末を同國政府に通告したる小村外務大臣は明二十七日衆議院に出席し其顚末を詳細演說して聲明する事に決せり(同上)

▲**豫算委員の總會** 廿四日廿五の兩日に亘り豫算委員總會を開く廿四日は各大臣より所管豫算に付き說明に引續き元田、大岡兩代議士の質問あり廿五日は吉植代議士より地租問題並に行政整理に關し質問し樺太臺灣の官制に就き統監府殊に[illegible]整理削減を加ふべしと說き[illegible]の爲め穀物輸入税率の必要なる事を述べたり而して[illegible]には本俸のみを增加し加俸に及ばさる旨說明せり(同上)

▲**昨年の麥實收高** 四十二年度麥實收高は二千百十八萬三千二百二十八石にして前年に比し百八十萬二千三百三十六石の增加なり(同上)

▲**阿里山官營問題** 前期議會に於て問題となりし阿里山官營問題は政府と藤田組との關係に付各黨派より代議士を派遣し調査したる結果官營の有利なる事を認めたるを以て多少質問あらん(同上)

▲**關稅ご委員長** 衆議院に於ける關稅委員會は野田卯太郎氏を委員長に擬めり(同上)

紐育電報

▲**移民絕對に禁止** 加奈陀議會は移民法第九十六條に關し修正案提出せり其修正內容は日本人移民を絕對に禁止する者也(廿六日)

哈爾賓電報

▲**新聞發刊の計畫** 淸國にある露國人某は蒙古語に通ずる辨髮と連絡し蒙古風俗露國の情況を調査し多分研究の上滿蒙文新聞を發刊し蒙人收攬の機關となさんの計畫あり(廿六日)

雜報

高等女學校の擴張

(三浦高女校長の談)

韓國に文部省指定の日本高等女學校は京城及釜山の二箇所にして他に仁川民團立の一校あるも尙は無資格に屬して今回吾が民團立京城高等女學校は居留地膨脹の趨勢に應ぜん爲め規程の生徒定員二百名を激增して四百名とし校舍を他に移轉して一大擴張計畫するに到れるが世人は此改定を以て突飛なる計畫の如く思惟するもあらん然れども此擴張は時勢の急要に應ずる爲めにして決して突飛の計畫にあらず現に過去二箇年の實驗に徵するも四十一年に在りしは九十六名なりし四十二年の學期に於ては百八十名に達せり更に本年の學期到れば十九名卒業生を出すも新入學生百五十餘名を眼前にして三百餘名の多數に達せん殊に殖民地特有の現象として轉學去者頗る多數なる事是なり試みに四十二年中に顧るも學科の年途より學を乞ひ來りたるもの四十六名あるは孰れも家庭を擧げて移住し來れるものゝ子女にして若し學席なき爲め之を拒絕せんか停學の不幸に際會せざるべからず故に昨年中に於ては他のより數多の入學志願者ありたるも之を拒絕し如上學生の爲めに常に數の空席を存置したり則ち將來に於ても此必要に應ずるの準備なかるべからず蓋し今回の擴張計畫は五年後の數を打算せるものなるも現時の大勢より推定する時は四十四年頃に到れば擴張機運に促さるゝやも計り難し

●**安重根ご韓辯護士** [illegible]滯在安重根の弟安定根より阿兄重根辯護の爲め京城辯護士會に向ひ屢々依賴する處ありしが同辯護士會に於て旅費其他相當用途を送附し來るに於ては其請に應ずべき旨答ねやりしに一昨廿五日同安定根より不取敢旅費として五十金を寄せ來り尙は他用途に就ては親しく面唔の上云々との消息に接せしに就き同會よりは兼て內議のありし辯護士金完燮なる者を派遣するの議あり多分同人を煩す事となるならんとの事なるが同人は辯護士間に於ても餘り名も知られぬ人物なりと尙ほ同辯護に關し平壤方面に於ける安重根の親族知人及同情者は各自相當醵金し同地在の辯護士安秉讚なる者を派出すべく決定したる由なるが同人は自から進で重根辯護の衝に膺らんとの意氣込なりと

●**忠南地方昨年農況** 最近に於いて忠淸南道江景、論山方面の實地を調査したる所によれば昨年の作況は江景、論山地方の大平野は頗る豐穰にして郡によりては一昨年に比し三割增收の所あり又一割增收の所もあり平均二割增收にて之を群山港の商區域大體の上より觀れば万頃江流域一部の不作地ありしと雖も平均して一割餘の增收となり群山港に搬出せられたる米は實に三十三萬六千五十石なりきと

共同倉庫の成蹟

資本金十五萬圓(既拂納株金五萬九千五百五十圓)
政府貸下金三十五萬圓
下半期純益金一萬四千四百六十三圓五十錢
後季推移金五千八百九十圓五十三錢
支配人 石井光雄

今南大門外漢城共同倉庫株式會社が昨年度下半期に於ける營業成蹟を聞くに韓國に於ては本邦と異なり常に生產物なくして只秋季に於ける農產物のみを以て目的とする國土の倉庫業なれば一昨年の不作が同社に對して最も大なる影響を與へたると加ふるに市場の不振は倉庫業者に對し實に大打擊なり加之每年秋季に收獲したる農產物は大抵五月頃までは荷捌するものなれば六月以後十一月までは倉庫は殆んど空庫の狀態にあるは年々例とする處にしての六ヶ月間は倉庫業者の厄日にて最も閑散なる月なり從つて同社も亦其の影響を受けたるは論を俟たず、抑も倉庫業たるや事業中最も至靜の事業を以て目さるゝ本邦に於てすら完全に利益を擧ぐるは不可能の事に屬され居るに拘はらず同社が前記の如き利益を見且一割二分の配當をなすに至りたるは全く支配人以下社員の奮勵に外ならず

●**漢江架橋反對運動** 漢江沿岸の麻浦より對岸に架橋するは航運上非常なる不便を感ずるは固より仁川港の航運業者にも直接影響する處甚大なれば慶田利吉氏其他五名の同業者は一昨廿五日俱樂部に協議會を催ふし反對決議を爲したる處へ龍山より當業者二名下仁し相共に打合會を開きたる結果廿六日仁川商業會議所より內部及統監府に宛て架橋許可取消請願書を提出する事に確定したりと云ふ

●**外人負擔の三稅額** 昨年度より施行したる韓國新三稅則ち酒、煙、家屋稅は歲入豫算總額は八十一萬圓なるが此內外國人の負擔額は左の如し

稅目	人員	賦課額
家屋稅	三、八〇二	四、一八五、〇〇〇
酒	一三六	七五三、〇〇〇
煙草	一、八六二	四、一五二、〇〇〇
計	五、七九一	九、〇九一、〇〇〇

而して昨年度の成績によれば一般の槪況は既記の如くなるが外人の徵收成績は一人の滯納者を見ず頗る良好なりし

●**太皇帝酒肴料下賜** 去る十五日德壽宮に於て警視廳及び皇宮警視の擊劍會を開きて太皇帝の御覽に供したれば非常に滿足に思召れて劍客一同へ酒肴料百圓を賜はりたりと

●**漁業法の周知計畫** 農商工部水產局にては漁業法の周知せられざる爲め昨年中吏員を派し當業者に說明せしめ居りしが更に近々平易なる說明書を調製し普く一般に配布すと

●**地方電信事務取扱** 扶安郡茁浦郵便所、鎭城郡郵便取扱所にては二月一日より電信事務を開始することゝなりたるが茁浦郵便所にては當分の間諺文電報を取扱はずと云ふ

●**侍從武官の平壤行** 山根侍從武官一行は二十四日夜新義州着二十五日朝義州に向ひ直ちに引返し昨二十六日一番列車より福島參謀次長と共に平壤に向つて出發されたりと

●**稅關監視署の新設** 二月一日より左記稅關監視所を新設す
碧瀾渡、三千浦、浦項、濟州

●**大久保大將の微恙** 軍司令官大久保大將は微恙にて引籠中

韓銀實見錄(五)

スイロオ生

▲韓銀に對する韓政府の補給利子も無利子年賦貸下金も特別預金も御其上皇帝の持株三萬株の拂込金も悉く帝國政府の出金に掛るものなり帝國政府の出金とは取も直さず帝國臣民の負擔に掛るものなり、如斯事實あればこそ桂首相は議會に於て韓銀設立の事を報告するの義務を有す、而るに木村韓銀理事が以上の事實を無視して叨りに韓銀獨立論を唱へ延て帝國政府の意志に反するの行動を採らんとするは之恰も韓人が被保護國民の分際を忘れて帝國政府に反抗せんと企つるに均しく木村氏の獨立論は帝國政府に對する一種の謀反なり、反逆なり、木村氏たるもの記者の言に抗辯するの辭を有するや否。

▲木村營業局長は曰へり本行にして實金を要する場合に於ては何時にても銀行券の發行を增加すべし、何を苦んで日本銀行より低利の借入金を爲すの要あらんやと、成程韓國銀行が其條例に因つて銀行券の增發を爲し得ることは貴說の如くならん、而れども銀行券の增發には正貨準備保證準備の要あり、以上の準備は如何にして爲さるべきか。

▲完全なる準備を有せずして發行せられたる銀行券が不換紙幣と化すること位は木村氏と雖も承知せらるゝなるべし、而らば木村氏は何時にても銀行券增發の場合に於て條例の命ずるが如き金銀、日銀兌換券、及國債證券其他の準備を爲し得ると信ずるか之れ記者が氏に質さんとするところなり。

▲第一銀行時代にありては正貨、保證の兩準備を爲すに當りて一種の便宜ありたり、开は木村氏も良く知るところなるべし、而かも此便宜は韓銀となつては絕對に有する能はざる所のもの也、記者の見を以てすれば韓銀が因て以て賴むところの保證準備は韓政府の借上金に對して發行する借用證文なり、此借用證文を唯一の保證準備として銀行券の發行を爲さんとす、之れ取も直さず他日韓銀券を不換紙幣となさんとするものなり嗚呼韓國銀行の重役は今より不換紙幣發行の豫想を爲す、誰か其無謀に驚かざるものあらんや。

●**特許と出願心得** 統監府特許局に於ては韓國特許令、商標令、意匠令、實用新案令に基き專用權を得んとする者の爲めに出願手續の要領を摘記したる小册子を印刷したるを以て關係當事者にとりては非常なる裨益あるべし

●**親衛府長官招宴** 親衛府長官李秉武は二十五日午後五時より惠泉館に明石榊原兩少將以下日本武官十名韓武官二十三名を招き新年宴會の答禮として盛大なる宴を催ふし午後十時散會せり

●**大韓齒醫會開催** 韓國在留の齒醫は大韓齒醫會を組織し時々會合して智識を交換し親睦を重ね來りしに今回新年宴會を兼ね第四回大會を來る廿九日午後五時半より淸華亭に於て開催の由

●**排日新聞の押收** 昨二十六日發行の大韓每日申報は愚民を煽動する記事を掲載したる爲め押收せられたりと

●**仁川署員新年宴** 仁川警察署員は二十五日午後七時より淺岡に於て新年宴會を催ふしたるが頗る盛況なりしと

福島中將の行程

福島參謀次長は二十四日安東縣に着二十五日滯在し二十六日一番列車より山根侍從武官と共に平壤に向ひ同地一泊の上二十七日午後二時五十分平壤發同夜京城着二十八、二十九、三十の三日滯在各官衙學校病院工場等を巡視し二月一日馬山に向け出發の豫定なるが三十日は仁川に往復する筈なり

●**國友警視の赴任** 內部警務[illegible]平壤へ轉任せし警視國友尙謙氏は[illegible]日午前九時南大門發列車にて赴任

●**藤原商店員交代** 東京銀座藤原商店京城主任村田文治郎氏は大阪[illegible]神戸支店の日野成氏當地主任[illegible]

●**加來台頭の歸仁** 加來榮太郎氏は朝鮮海水產組合代議員會に出席の爲め釜山に出張中なりしが廿五日[illegible]

●**戶叶薰雄氏東上** 大韓日報[illegible]同氏は政況視察の爲め二月上旬[illegible]

●**鐵道委員の東上** 鐵道期成會委員大村保太氏は廿七日朝出[illegible]

●**塚本技師の歸任** 東上中の[illegible]技師塚本農學士は二十六日夜[illegible]

韓國淸酒の有望

世界に於ける淸酒の消費地は[illegible]淸國布哇北米合衆國英領[illegible]印度等にして其の消費者は[illegible]等在留日本人とす而して之等[illegible]は一も淸酒を釀造することなく皆其供給を日本に仰げり今韓國が輸出を圖らんと欲せば勢ひ日本と爭して其販路を求めざる可らず日本は勿論淸酒の最大需要地なる所に釀造され上下各種の淸酒に付年額四百万石に上りて消費して年々六万餘石の輸出をなすも日本の造石稅は二十圓の輸入税は一リートル十七錢に付約三十一圓を課せられ加之出の際從價五分の輸出稅を課するを以て日本に對しては到底[illegible]されど布哇北米合衆國英領香港海峽印度等に對しては[illegible]航行の船舶なきを以て日本に俟たざる可らざるが故に日本產[illegible]額の輸送費を要し且つ輸出稅[illegible]る上之等諸國に於ては殆んど[illegible]の上等酒を需要するを以て[illegible]路を求めんとするも甚だ困難[illegible]只望を屬すべきは淸國及露領[illegible]して淸國特に滿洲は韓國に[illegible]大需要地にて將來亦日本人[illegible]に連れ需要は益々增加すべく[illegible]ず滿洲には日本人の下級勞働者[illegible]多きを以て下等酒も相當に需要[illegible]日本產上等酒と混合用とし[illegible]あるべし且つ滿洲と韓國と[illegible]を以て兩方面に對し販路擴張[illegible]は韓國淸酒の輸出は將來[illegible]に至り頗る有望なるもの[illegible]

李の豫審と擬律

▲生か死か判決近し

李完用氏の兇行犯人たる李在明以下嫌疑者二十五名は種々調査の歩を進め居る由なるが既に大体の調査を了したるに依り来月上旬には豫審に付すべき筈にて今此犯人に適用すべき律は韓國の刑法大全を見るに同法四百七十三條に人を謀殺したる者及謀殺を造意したる者は下手又は助手したる者は併せて絞に處し随行のみにて下手又は助力せしてと無き者は一等を減ずとありて主犯従犯ともに同一罪なり而して此犯罪は未遂に終るを以て其の條項を見るに同法八十六條罪を犯さんとして陰謀し已に準備を為し又は其の事を行ひたるも意外の障害又は錯誤に因りて未だ罪を犯すに及ばざりしものを未遂犯と謂ふと規定し準備の犯罪も所罰せる上に同百三十七條にて未遂犯は既遂犯の律に一等乃至三等を減ずることを得とありて未遂犯の減等は除外例たることを示せり依て案ずるに兇行の本人は固より其の連累者も多くは絞に處せらるべき刑法の精神なりと解釈せらるべしと因に記す連累者の多くは平壤産の者なりと

全南の難破船

▲遭難者は十二名

去る二十二日午前六時頃全羅南道海南郡の海前にて激浪の為め難破し十二名中韓人十名溺死したりと

馬賊に襲はる

▲二十名にて来襲す

去る二十日咸鏡北道龍川府揚下面揚市東部同事務所及救世醫院に馬賊約二十名銃器等を携へ闖入し韓人等を殺害し猶四名に傷を負はせ金五十七錢五厘外反物四十一圓を強奪したれば駐在の韓巡査両名は急報に接し多數村民の援を得て現場に馳付けたるに賊は頑強に抵抗したるにぞ一部は新立岩洞方面より鴨緑江を渡り清國領に逃走せしが殘れる二名は尚ほ恐らしく六連發の拳銃を所持し居れりといふ

●賊魁延尚横行す

▲山中に籠り行人を悩ます

去る廿一日安城駐在所今井巡査は西面拾洞に至りし處山中より銃聲聞ゆるより暴徒と偵察隊の衝突ならんと想像し歩を進めて現場に向ひしに同じく伊川より安峽に向ふべく約一時間先發したる渡邊巡査が西面檜梧居の南側山中に賊五十餘名あり襲撃され同行韓人巡査と共に退却し来るに逢ひ伊川に引返したるが當日伊川より安峽に向ひしは前記三巡査伊川財務署主事四名韓人一名伊川一進會の經營する私立學校教員日人一名なりしも幸ひにして先發したる前記巡査のみにて他は無事なり而して賊の兵器精鋭なると其數とにより他の情報を綜合すれば賊は延超羽なる事確然たりといふ

●佛人韓人を狙撃す

▲天罰陽根に命中す

平壤南山町に住む佛國人シ、ジアナンは自家の構内に積みある松葉を時々盗まるることあるを以て常に注意し居たるに去る二十二日午前三時頃物音のあるに依り室内より窺ひ居れば松葉二把を門外に持ち去らんとする者あるを認め窓の戸を開きたれば賊は其音に驚きて逃去りしと思ひきや再び忍び来りし故今度は十番径の猟銃に彈丸を装置して威嚇する心組にて賊の脚下に發砲したる所意外にも賊の陽根及び兩脚に命中したる由にて賊は尹鉉圭(三六)と云ひ直ちに同仁病院へ入院せしめたるも出血多量にして生命覺束なしと云ふ

●言傳はないか

▲巴城館主の落膽

新年の京城座に乗込んだ秦次一派の女優の中に廣三郎と云ふ些度見られる女があつた面が可い丈けに些々袖を曳く男も尠なくなかつたが何れも風に柳の内に一人其の袖を曳き當てた男がある松本某と云ふ高等旅館の主人公で其後と云ふ者は廣三く／＼と随分可愛がり方に御念の入つた物であつたが其の内芝居も千秋樂となつて一兩日中には出發と云ふ前日別れ旁々其夜は二人一緒に龍圖一座の歌舞伎座見物と出掛た迄は可いが秦次一派の雛方を勤める廣三郎の素振りが氣にかゝつて堪らず其の亭主は此の頃再三外出する女房は歌舞伎座行きだとチラと聞いたを手掛りに跡追つかけて入場し何處に居るかと眼を皿の様に見廻す向ふの平土間に可愛の女房は見も知らぬ一人の男と肩を比べて見物し居るに女ならば難でも起す處なれど氣の少さい雛方丈けに早鐘を撞く胸を押へて立歸つたが其の夜から口惜しいも上らぬ病人と云ふ始末に友達共も氣の毒に思ひ彼れ是れと慰めた上借て一座一同京城を出發して了つた斯くと聞いた松本は直樣電話口に駆け寄つて「アー京城座ですか廣三郎は發ちましたか、最う發つたとは一ん往く先きは仁川でせう、違ふ、木浦ですさ、れ可笑いな確か仁川だと云つたのに……併し何か言傳けがあつたでせう、何も言傳なんかはありませんですと、否や其座敷ぢゃないが、可く考へて下さい何とか云つて往た筈ぢゃが……」電話は向ふから切つて了つた松本さんは電話口で頤りと首を捻つたとか聞いたを其儘あらく／かしく

●困つた男ぢゃ

長崎縣平民當時光化門内學部炊事雇人安永亥三郎(二五)と云ふは一昨日午後零時半頃至極酩酊なして旭町附近より車に飛び乗り道々通行の韓人共に惡口しながら美洞派出所前に差し掛るや又しても一韓人に向つて惡罵を加へしにぞ「何故に惡口するか」と該韓人が向つて来りし者から對手ほしやの同人は「何も糞もある者か」と云ふより早く車を飛び降りし勢ひに韓人は吃驚敗亡一生懸命に逃げ出せしかば安永も劣らず跡を追つかけしも醉漢の事とて遂に追附き得ずして歸り来りしが其の腹癒を今度は變番の韓巡査に持つて往き「何故今の韓人を逃したるや」と飛んでもなき云ひ懸りを為し果ては同巡査を挟る乗つて来た車を破る等益々亂暴を働きて始末に了へぬより日本警官出張本署に引致なしたるも何分醉中の事とて厚く説諭を加へられし上人力車の破損代三圓及車代五十錢は本人持合せなき為め自宅にて支拂はせる事として放還されたりとは途轍もなき困り男と云ふべし

●荷物を押へる

仁川寺町二丁目筑後屋事伊藤忠太郎方の酌婦京都生れの山口ツル方と云ふは去る十八日支那町なる荻田長三郎と云へる回漕業者に卅二圓にて落籍され同人と世帯を持つ事になりしかば一昨日午後七時頃筑後亭に至り預けある衣類其他の物品を持ち出さんとせしに同亭に於てはツルタに未練の殘りあるか將た他に野心のありてにや何彼と故障を申立てゝ荷物を渡さゞるにぞ此旨宮町派出所に訴出で警官の助力を得てやつと荷物を取出し巡査さん有難うれまつすと涙を流して引揚げたりとは結構千万

●行旅病者收容

大阪市南區本町筋三丁目當時南山町三丁目の玉多敬五郎と云ふ男は去る四十年中渡韓當地にて勞働に従事し居たる者なるが去る十八日頃より肺炎に罹りし為め當時の居まなる坂義三郎より總岡病院に入院せしめ居しも到底短時日にては全快覺束なく且又義三郎とて夫れ程の餘裕もなきより一昨日本署に右救護方願ひ出しに就き取調の結果事實相違なき者と認められ行旅病者として收容さる

●韓人の掴み合ひ

仁川新昌洞居住の人夫文春澤(三二)と云ふは一昨日午後九時洞内勞働組に於て同じ仲間の見成玉(三〇)と酩酊の上喧嘩を初め見の上衣を破りし騒ぎに警官出張双方を説諭したりと

●娼妓の鞍替

仁川敷島遊廓第二敷島樓の娼妓事坂本よしは一昨日龍山桃山に鞍替したり

●一昨日の新町

同遊廓一昨日の遊客は百〇七名にして消費金額は五百六十圓四十五錢なりしと

●一昨夜の敷島

遊廓登樓客數は六十一名にして消費高二百四十九圓五十八錢なりしとは近来になき盛な事

演藝

▲歌舞伎座　同座本晩の替り狂言は前『新木作肥後木履』五幕切『奥州安達原』三段目祭文の場にして袖萩、貞任の二た役は福圓の事なれば面白く見らるべし例に依つて其の役割は左に

中川總之助、妻袖萩、安部貞任(中村福圓)娘おぬい後に女郎綾絹(中村梅女)矢阪源二兵衛、月岡刑部、市川眼若)仲間駒平後に向井善太郎、母濱夕(中村福三郎)役割惣次後に魚屋惣次姉れ澤(中村菊三郎)磯田新造、安部宗任(嵐吉蔵)下郎粂造、召使れきく(中村菊太郎)矢阪源内、松平讃岐守(市川小文治)奴只助、青山將監(片岡當久次)召使おすみ後に女房れすみ妹お江(實川菅若)松山私之進、村田豊後之介、父鎌倉(嵐壽太郎)門弟源氏、ばゝおまつ、酒井主水(中村昇若)

▲壽座　同座本晩の藝題は『天下知桔梗旗揚』十段目迄にして切『艶姿女舞衣』酒屋の段の由にて其の役割は

森蘭丸、重次郎光慶、女房れ園(坂東大之助)妻操(市川猿志)羽柴久吉、淺山多宗、酒屋の母(嵐芳之助)初菊　嵐金之助　八城丈助、酒屋半七(市川猿孝)連歌師丈巴(市川鯉昇)妹桔梗(片岡小蝶)森力丸、三勝(尾上梅枝)長尾彌太郎、皐月、酒屋半兵衛(片岡蝶昇)小田春長(市川好猿)武智光秀、父宗岸(嵐鱗十郎)

▲平民文庫▼

▲昨年五月五日に産れた僕の娘が肺炎に罹つて漢城病院に入院してるので妻も附き添ひとして病院に留置せられて居る▲病院に留置されてると云ふのも少々可笑しいが自己の意志よりでなく擔みなく宿泊せざるを得ざる可くされて居るのであるから拘留々置と異なる所はない、だから斯う云ふのである▲イエスは人はパンのみにて活くるものに非ずと云はれたがさりとてパンなくして活くる能はざる拙者は勢ひ自ら炊爨に従事しなくてはならぬので日々南大門市場に行くべく餘儀なくせられて居る、云はゞある強制執行されて居る▲廿六日の朝の事である水産市場の前に立つた、例の如く危險千萬なる艀を振り立てゝ居る身振り無振りを緩心して調べてあるく魚を見て居る江戸ッ兒らしい内儀があつたが賣手の一人を捉へて此れは鯖ですかと尋ねた▲スルト魚屋君済したものでイ、エ此れは鯖よりはズット美味いブリで御座いますと云ふ▲ヘーブリ?ですか……新しいですかと聞く▲何う致しまして新らしいにもなんにも此の通り(と突て見せ)氷つても居りません▲成程、それ内儀さん騙く敢心して扨、一人前は賣りませんか▲魚屋君聊か拍子抜けの體で、ドウモ夫れは(鳳翔子)▲中の新地常盤樓の奴は断婚運ではないか近頃非常に横着になつた彼の事を出歯抜こうか(狐小僧)▲出歯抜こうか、出歯抜いて呉れ玉ヱ(小僧)は面白い、▲長谷川町一丁目の〇〇の亭主は小供もあるのに拘はらず太平町の玉水亭の亭主に頼んで某料理店の女を妻に持つた小生意氣な大概で止さんと一つくスッパ抜くぞ(兎耳生)▲警視廳の馬丁〇本の大はんに妾が名刺を一枚呉れとくんなはれと云ひましたら大はんドングリの様な眼をヒン剝いて俺の名刺が欲しくば警視廳まで来い俺達の仲間には何をするにも規則がある▲ト、マねらさうに云やはりましたが警視廳邊の馬丁はんと云ふものはねら六かしいもんやれまへんか▲夫れから大はんちやない〇本はん一つありまつせ、序でだによつて妾い思ひ切つて云ひますわあんたはん少し水でも酒でも飲みやはると土足のまゝで何所へでも上りやはるが馬丁をしやはるさかひ馬の性がうつゝたのやれまへんか其の癖を直してあげますさかい出やす(支那湯前)▲此樣に悪口を云ふ位なら名刺を呉れろと云ふには及ばんぢゃないか(小僧)▲南大門通りに立つて小學校通ひの男女學生を見較べて彼の人と此の人が夫婦になつたらなアと詰らんことを考へて見たが何んにもなるまいナア(紅)▲無論(小僧)

吉凶鏡

本町五丁目　三一館判

一月廿七日月齢十二の千六先負八白壬辰▲△一白●遺失盗害中傷の難あり新事見合の事何旅行嫁娶の事験凶△二黒●長上者より無理を以て抑壓せらるゝ事あらん保證世話事を禁ず△三碧●音信異事を報ずるあり旅行凶詐術横領防ぐべし△四緑●陰衛の日なり物事澁滯整塞不通に終らん婚姻養子の事験吉△五黄●平静の日なり但し業務官職上に失念疎漏ある勿れ△六白●盛運の日なり收利會心事あり事業始め婚姻等尤も妙△七赤●隆升の日なり大抵の事吉殊に相談依頼就職等好果を擧ぐ△八白●創業及挨拶等方針等事凶女色酒害を戒しむ△九紫●仕官就職婚姻開店案吉旅行轉宅凶

●天氣豫報(自廿六日午後六時　至廿七日午後六時)

晴れ

廿五日(華氏)　最高温度　三〇、九　最低温度　一三、五

大塚常三郎妻
富士子　義て病氣の處養生不叶本月二十五日午後三時三十分死去致候に付此段謹告仕候
追て葬儀は本月二十七日午後一時自宅出棺明治町一丁目淨土宗開教院に於て相營み申候
明治四十三年一月二十五日
親戚　小田部胤康
友人　中村胤彦
平渡信
青木戒三
生田清三郎